

2022.12.22  
第157号  
歴史グループ早雲  
代表 井上一夫

# 早雲だより

## 第二七三回 歴史ハイキング 報告

### 近江聖人・中江藤樹の軌跡をたずねる

2022年11月27日(日)

#### はじめに

本日の歴史ハイキングは、滋賀県高島市安曇川町を近江聖人・中江藤樹先生の軌跡を求めて散策しました。

中江藤樹先生は江戸時代の初めの頃生まれて、我が国で最初に聖人と呼ばれた人です。王陽明の思想に共感し、自らの学問を築いたことよって日本陽明学の始祖とされています。

本日は晴天に恵まれたハイキング日和になりました。参加者は27名でした。JR安曇川駅を出発し、先ず中江藤樹記念館に向かいました。

#### 中江藤樹記念館

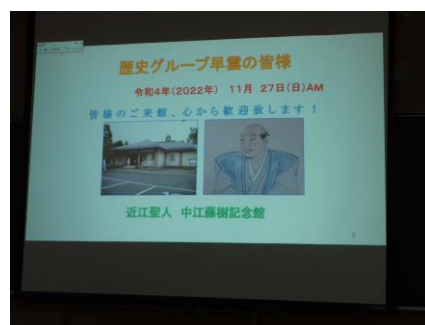


(写真) 記念館

20分ほどで中江藤樹記念館に到着した我々は職員の方に快く迎えていただきました。

中江藤樹記念館は、中江藤樹先生生誕380年を記念し、昭和63年に開館しました。展示室は中江藤樹の遺品・遺墨などの常設展示のほか、特別展も実施さ

れています。



(写真) 講義タイトル

我々は講義室で職員の方から中江藤樹先生の講義を受けました。

先ず、藤樹先生ゆかりの逸話の動画を拝見しました。母孝行に藤樹がこつやくを届けた「あかぎれこつやくの話」、藤樹の教えを受けた正直な馬方が客の忘れたお金を遠路届けた「馬方又左衛門」、その他「村人の道案内」、「熊沢蕃山の入門」など、藤樹先生の教えを大切に守り、人に慕われる人柄が良く描かれていました。講義では祖父の養子となり大洲に移住し、大洲で勉

学に励まれ、大洲藩で武士として職を得たものの母への孝行の為、結局27歳の時、脱藩し故郷へ戻りました。故郷へ藤樹先生を慕う大洲藩士が教えを乞いに訪れました。



(写真) 講義風景

実家で藩士へ教えていたのが、手狭となり別棟を建てて教えました。村人も加わり、やがて私塾では最古の藤樹書院となりました。藤樹先生の教えは儒教でしたが、儒教は当時朱子学が一般的でした。藤樹先生は37歳の時、儒教の自分自身の持ち方を大切に示す陽明学に出会われまし

た。王陽明の思想に共感し、自らの学問を築いたことにより、日本陽明学の始祖とされました。

### 「致良知」

藤樹先生の教えとして「致良知(ちしようち)は、人は、だれでも「良知」という美しい心を持って生まれています。この美しい心は、だれでもが仲よく親しみ合い、尊敬し合い認め合う心です。その良知に従い行いを正しくするよう日々努力することが大切です。

藤樹先生の教えはその子弟に引き継がれ現在に現在に至っています。

今年には藤樹神社創建100年となり、創建時に多くの浄財が集められたことと。その中に渋沢栄一の名前もありました。その功績を称えて神社境内に渋沢栄一の石碑も建立されています。講義をしてくださった記念館の職員の方、藤樹先生

の生涯からその教えや継承者など理解しやすい講義でした。ありがとうございます。

我々は記念館の展示を見て12時に記念館を後にしました。



(写真) 良知館

記念館から5分ほどで藤樹書院と休憩施設の良知館に到着しました。良知館をお借りして昼の休憩にしました。

### 藤樹書院

午後1時に藤樹書院前で集合写真を撮影し、敷地が良知館に隣接する藤樹書院へ行きました。

現在の藤樹書院は明治13

年の大火で焼失したものを2年後に再建した建物。畳の間に上がらせていただきました。畳の間には我々の為に椅子と資料がセットされておりました。心遣いに感謝いたします。



(写真) 藤樹書院

藤樹書院ではひ氏んのお話を聞きました。音吐78歳ですが、気合い充分なお話を拝聴しました。

明治13年の村の大火の時、村人は自分の家が燃えているにも関わらず、書院の中の物を運び出したとのこと。藤樹先生がいかに大切にされていたかを物語るものです。



(写真) 講義風景

藤樹書院の年中行事として「儒式祭典」(九月二十五日)が藤樹書院で行われます。藤樹先生が亡くなったのは旧暦の八月二十五日。ひと月遅れの命日に儒式にのっとりて厳かに執り行われます。藤樹先生の子孫がめったに供養に来ないのに村人は藤樹先生を長年にわたり供養されています。藤樹書院に安置されている神主(仏教の位牌)や懸け軸は本物ということ。神主(しんしゅ)は1尺2寸の長さで、中が空洞になっています。表は白く塗られて骨をあらわしている

そうです。儒教では命日に亡くなられた方の霊が戻って来て、神主に入ると考えられていたそうです。霊の入る穴が横に空いています。正面に生前の名前が書いてあります。仏教では神主にならって位牌を作ったようです。

### 「知行合一」

藤樹先生の教えの一つに「知行合一」があります。

意味は、人々は、学ぶことによって、人として行なわなければならない道を知ることが出来ます。しかし、学んだだけで、それを行なわなければ、本当に知ったことにはなりません。

例えば小学生は「三」は捨われないといけないということを学びます。授業が終わり教室を出るときに、「三」があっても捨わらないで出ていく。これは「知行合一」ではない。物事を良く理解し、実行してこそ、はじめ

て知ったことになる。その他、藤樹先生にまつわる話しをいろいろ聞かせていただきました。大塩平八郎の乱の時は幕府の追求が激しく大変だったとのこと。乱に関わった末裔がおられるとのこと。いろいろな話ありがとうございました。



(写真) 藤樹先生生家跡

我々はその後、藤樹先生の生家跡、藤樹先生の名前の由来の藤の木の手切り株などを見学しました。

## 藤樹先生墓所

次に先生の墓所を訪ねました。



(写真) 藤樹先生墓所

墓を訪ねてきた人に対し村人は袴に着替えて案内したとのこと。先生とお母さんと跡を継いだ息子さんのお墓がありました。

## 藤樹神社・陽明園

藤樹神社で藤樹神社御創祀100年記念碑(表の人物は渋沢栄一翁)を見学し、神社に参拝しました。

藤樹先生ゆかりの見学場所の最後に「陽明園」を見学しました。ここは旧安曇川町と王陽明生誕の地の中国浙江省との友好交流のシンボルとして造園された中国式庭園です。



(写真) 藤樹神社御創祀100年記念碑



(写真) 藤樹神社

この後、JRの時刻調整で、道の駅に立ち寄りしました。地域の名産の買い物や地元のアイスなど各自楽しんで

みました。JR安曇川駅で無事終了しました。

## 散策のおわりに

藤樹先生の教えは新鮮に胸に響きました。いただいた資料を読み直して日々の生き方の参考にしたいと思っています。

同行の人が記念館に置かれていた資料にあった「下一念(とつげいちねん)」に深く感じいったとのこと。今の一念これを続けることだという意味です。皆さんもそれぞれに感じられたことと思います。とてもすがすがしい気持ちで散策を終えることができました。

藤樹記念館の職員の皆さま並びに藤樹書院で解説していただいた方、お世話になりました。誠にありがとうございました。

参加者の皆さんご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

## 一口感想

M・S

安曇川の道の駅に大きく表示されている中江藤樹の名前を見る度に以前から儒教に関係ある人としか認識していなかったので歴史ハイクでのコースに興味をもって参加しました。記念館や書院の方の説明で大洲との関係や勉学に励んでおられた先生のことを知ることができ、嬉しく思っております。

京都より遠方の下見等大変であったと思われませんが、ありがとうございました。

◇◇◇◇

Y・T

中江藤樹が、400年後の今も地元の人に尊敬されて、大切にされていることに驚きました。その教えは現在でも通じる内容だと思えます。安曇川の町は、落ち着いた静かな町で、水路の水も清らかで、歩くだけ

# 【編集後記】

記念館職員の上田様

近江聖人 中江藤樹先生について、近隣の観光案内などを交えてリラックスできる雰囲気、良く整理された御講義をいただきました。ありがとうございます。

歴史グループ早雲歓迎のタイトルまで作っていただき感激いたしました。藤樹先生のことを、よく理解できました。

藤樹書院の上田様

力強い御講義ありがとうございます。ありがとうございました。藤樹先生への愛情が満ち溢れておりました。

「知行合一」などの教えの意味を本当に理解することができました。藤樹先生の教えられたことを、どう生かしていくかが分かる御講義でした。ありがとうございました。

でも気持ち良かったです。

◇◇◇

Y・O

中江藤樹といえは、「あかぎれ しもやけの薬をお母さんに届けようとした人」という話を小学生の頃に聞いたことを思い出しました。

◇◇◇

匿名

本日はゆかりの地を訪ね記念館職員の話やパンフット、展示物から、それ以上のことを知りました。「致良知」「五事を正す」など、あ

江戸時代の近江といえは、思い浮かぶのは「朝鮮通信使」と「雨森芳洲」でした。正直、近江聖人中江藤樹って、誰？

という感覚が、今回歴史ハイキングに参加し、中江藤樹についてその学業や人となりに

ついて知ることができました。特に藤樹書院での迫力ある説明には引き込まれました。また、今回は歴史を知る楽し

みに加え、道の駅での買い物もでき、一度で二度楽しいハイキングでした。

◇◇◇

◇◇◇

H・M

近江聖人 中江藤樹の軌跡を訪ねて

湖西線の車窓から眺める比良山系の紅葉も今年は一週間

を正す」の言葉と「教え」

程度早そつで、ゆく秋を惜しみつつ安曇川駅に到着。

◇◇◇

今回は中江藤樹オンラインという事で、藤樹記念館で

おおよそを理解する事ができたが、藤樹書院での元校長先生（上田藤市郎氏）の明快でユニークな解説で藤

樹の人を引き付ける特別な魅力と、人間性を感じる事が出来ました。陽明学については、皆目理解する事が出来ませんでした。

また、残念な事に陽明園のシンボリックな中国風の建造物が老朽化のために、解体されたことです。数年前に訪れた時の印象がまだはつきりと浮かんできます。

◇◇◇

Y・M

中江藤樹記念館で見たビデオに違和感を覚えませんでした。41歳という若さで亡くなられたと言っておられました。それは現在の私たちがいかに感情だと思

ます。

江戸時代初期平均寿命は30歳から40歳くらいで

けっして若くはありません。思えば歴史というのは後の時代になり評価が変わることがよくあります。また、人によってもいなく考えは違ってきます。

あらためて歴史というものは時代によって、又は人によって違ってくるものだとあらためて考えさせられました。

さて、次の散策では、どのようなことを考えさせてくれるのでしょうか。

次回の散策は私、村田の地元高槻での開催です。高槻は、いにしえより京都にも大阪にも近い要所で史跡の宝庫です。楽しみにして

◇◇◇

◇◇◇

◇◇◇

◇◇◇

◇◇◇